市Ｐ連　令和8年度 広報委員研修会

2026年10月8日（木）









市P連 令和8年度 広報委員研修会　各校へのフィードバック
「みんなどうしてる？ これからのPTA 広報」 2026年10月8日（木）開催　参加者６０名

研修のねらい

学校ごとに広報の形や制作体制はさまざまです。事前アンケート、各校の事例紹介、グループワークを通じて「他校ではどうしている？」を共有し、各校が一つでも参考になる工夫を持ち帰ることを目指しました。

グループワークで共有された課題と工夫

① 写真・顔出しと確認
　児童・教職員の掲載可否が分かりにくい、掲載後の差し替えが負担という声。
　学校によるチェック、写真提供、イラスト・加工の活用などの例が挙がりました。

② 学校とPTA の役割分担
　写真撮影、原稿作成、校正、承認、配布・投稿の分担は各校で異なります。
　PTA だけでは確認できない情報がある一方、教員に負担が集中しない調整も必要です。

③ 引き継げる仕組み
　オンライン会議や議事録、紙面・作業手順のテンプレート化、共有データの整理など、委員や担当教員が替わっても続けられる工夫が話題になりました。

2ページ目へ続く

④ 媒体・頻度・制作費
　紙の広報紙、Instagram、デジタル配信、QR コードなどの使い分け。
　発行回数の見直し、Canva での編集、印刷・外注費と作業負担の比較が挙がりました。
⑤ 広報の目的と届ける相手
　「発行すること」自体を目的にせず、保護者や地域に何を知ってもらいたいかを考えること。
　PTA 活動への理解や、学校と地域のつながりを生む発信も話題になりました。

各校で共有したい３つの問い
・誰に、何を、何のために届けたいか。
・写真・原稿の確認と発信を、学校とPTA でどう分担するか。
・担当者が替わっても、無理なく続けられる仕組みになっているか。

研修を終えて ― 広報委員長より
　今回の研修会では、各学校の取り組みや工夫を伺う中で、私自身もたくさんの気づきをいただきました。
特に印象に残った取り組みが二つあります。
　一つは、黒田小学校PTA のInstagram です。
情報を発信することだけでなく、運用のルールや役割を整理し、担当者やPTA 会長が替わっても、無理なく続けられる仕組みを整えていることが印象的でした。
PTA 活動は、毎年関わる人が替わります。だからこそ、誰か一人の頑張りに頼るのではなく、次の人へ自然につないでいける仕組みが、これからますます大切になるのではないかと感じました。
　もう一つは、井之頭小中学校PTA の「写真展2026」です。
（今年度は11月20日（金）・21日（土）11：00-17：00 井之頭区民館に開催されます。）
広報紙という形ではなく、地域の施設を会場に、子どもたちの学校生活や行事の様子を写真で伝える取り組みです。
学校で過ごす子どもたちの姿は、保護者であっても意外と知る機会が限られています。写真を通して、普段は見えにくい学校生活を知ることができる。そして、地域の方々にも子どもたちの成長や学校の様子を感じていただける。そんな広報の形があることを、とても素敵だと思いました。
さらに、学校行事だけでなく、地域行事や地域の方が撮影した写真なども加われば、学校と地域のつながりが一層広がっていく可能性も感じます。
　広報は、必ずしも広報紙を発行することだけではありません。誰に、何を、どのように届けたいのか。その目的に合わせて、さまざまな形があってよいのだと改めて感じました。
　そして、今回の研修を通して、改めて大切にしたいと感じたことがあります。
それは、PTA は保護者だけで活動する組織ではないということです。
PTA は、保護者と教職員によって構成される組織です。子どもたちのために、保護者と先生方がそれぞれの立場から考え、力を合わせていくことが、その活動の根本にあるのだと思います。
　今回の研修会では、各学校の広報に携わる皆様から、さまざまな工夫や悩みを伺うことができました。
その中には、保護者だけでは解決が難しいこともあれば、先生方と情報を共有することで、新たな方法が見つかることもあるのではないかと感じました。
だからこそ、研修に参加された方々だけでなく、各学校の先生方にも今回の内容をお届けしたいと思い、この資料をまとめました。
　日々の学校生活を支えてくださっている先生方と、子どもたちを見守る保護者。それぞれの立場で見えていることや感じていることを分かち合いながら、無理なく、そして前向きに活動を続けていけたらと思っています。
子どもたちの未来を思い描きながら、私たち大人自身も生き生きと、楽しみながら関わっていけること。
そんな姿が、子どもたちにとっても、きっとよい力になるのではないでしょうか。
今回の研修が、各学校での新たな気づきや対話のきっかけとなり、子どもたちを中心に、保護者と先生方、そして地域の皆さまとのつながりが、さらに広がっていくことを願っています。

富士宮市PTA 連絡協議会
2026 広報委員長 野﨑真佐子

※研修スライド・進行台本・グループメモに基づく要約。発言の逐語録・市P 連の統一方針ではありません。